

# 第 10 回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

## 議事要旨

日 時：令和 4 年 4 月 28 日（木） 10：00～12：00

場 所：W e b 会議

### 1. 開会

### 2. 開会あいさつ

（中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長）

### 3. 委員長挨拶

### 4. 議事

#### (1) モニタリング委員会規約（改正案）について

事務局より、規約（改正案）について説明し、了承された。

#### (2) モニタリング委員会の概要

特に意見なし。

#### (3) 令和 2 年度及び令和 3 年度の出水概要

特に意見なし。

#### (4) 第 9 回土砂収支部会結果及び追加整理結果の報告

事務局より、令和 3 年度に開催した土砂収支部会の結果と追加で整理した内容について報告した。主に以下の意見を頂いた。

- ・ 貯水池堆砂状況について、現在、コンジットゲート付近までの堆砂が進行しており、今後はコンジットゲートからの放流土砂量が増加することが想定される。コンジットゲートからの放流土砂量を把握することが重要であり、その調査方法を検討すること。
- ・ 昭和 30～50 年代は山地が荒廃しており崩壊地が多かったため流入土砂量が多く、近年は崩壊地が少ないため流入土砂量が少ないと考えられる。現在と過去の山地の崩壊状況は異なるため、LQ 式を使い分けることも検討すると良い。
- ・ 令和 3 年度はバイパスを使用していないため、堆積土砂の粒度構成は、以前より粗い可能性があることから、その点に留意して検討すること。

- ・ バイパス土砂量算定に用いる分派特性は、流量規模の変化と一方向ではない傾向を示す河床高のケースがある。大粒径の分派特性と併せて、その変化特性の要因をしっかりと分析しておくこと。
- ・ バイパス運用の停止基準については、平成 30 年や令和 2 年の出水の洪水規模（流量）や継続時間と、バイパス土砂量（礫質の量）との関係式を作成しておくことで、バイパス運用を終了する目安に活用できる。
- ・ ステップ③に進まないことをバイパス放流中止の判断基準とする、ステップ②でどのような状態になったときに部分補修あるいは全面補修を実施する、など、運用方法とステップ進行の関係を整理すると良い。
- ・ 洪水中を含む実運用中に、具体的にステップの進行状況を判断するための閾値を設定することが合理的だと考える。

#### (5) 第 7 回構造部会結果及び追加整理結果の報告

事務局より、令和 3 年度に開催した構造部会の結果と追加で整理した内容について報告した。主に以下の意見を頂いた。

- ・ 平成 30 年までの摩耗状況についても、摩耗が大きい区間の中にも一部摩耗していない範囲がある。摩耗していない箇所を中心に、注意深く分析する必要がある。また、不均一に摩耗が進行するという視点で、今後検討・評価すると良い。
- ・ 吐口部は水位が大きく変動する区間であるため、他の区間とは異なった視点での要因分析が必要である。

#### (6) 第 9 回環境部会結果及び追加整理結果の報告

事務局より、令和 3 年度に開催した環境部会の結果と追加で整理した内容について報告した。主に以下の意見を頂いた。

- ・ 「潜在的な小渋川の状態からの乖離度」という表現は、従来の小渋川の環境と比較すると、平常時の流量や水質が異なると考えられるため、「潜在的な小渋川の河床や河床変動の状態からの乖離度」など、表現を修正すること。
- ・ 土砂が供給され河岸侵食が生じたことで川幅が広がったことを踏まえると、物理環境を評価する際には、平水時の水位が低下する視点での評価が重要である。また、河岸侵食により流木が流出する影響を評価すること。
- ・ 大きなインパクトとしては、土砂供給量が増えて河岸侵食を受けたことで川幅が広がったことである。河床変動領域（攪乱領域）が増えたことは、生態系の典型性を考える中で最も大きなレスポンスとなるため、その視点で評価すると良い。
- ・ 河床材料の組成の変化と生物の変化の関係を詳細に分析すると良い。
- ・ バイパス運用休止によるレスポンスを理解するためにも、河川景観の変化の視点で、自然裸地が増加し草地・林地が減少している点を考察すると良い。

- ・ 付着藻類の質の評価について、無機物率はバイパス運用前後で高いままで変化はなく劣化している状態が原点となっている。強熱減量はバイパス運用後に低くなっているため丁寧な評価が必要である。
- ・ 底生生物の変化の要因は、土砂の供給と洪水の掛け合わせであるため、切り分けて評価すると良い。

#### (7) 各部会の今後の方針

- ・ 今後の各部会の調査・検討スケジュールについて、提示された内容で概ね了承された。
- ・ 土砂収支部会と構造部会は関連する内容が多いため、今後は合同で開催するという事務局の方針について、了承された。

## 5. 閉会